

潮流



大津島(平成26年12月1日現在)
人口 320人(男136人 女184人)
高齢化率 75.3%

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。



旧年中は、地域コミュニティ推進につきましては、格別のご支援ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨今の当地域におきましては、昨年11月に東京で開催された「アイランダー2014」へ初めて参加しました。詳細は、今月号の潮流をご覧ください。

役員の一員として、古城涼太君も参加し、大津島のために色々と頑張ってくれました。今後の彼の活躍が、楽しみなのは私だけではないと思います。

本年のコミュニティの活動としましては、5月に鹿野中学校の生徒達が、民泊体験にやってきます。彼らに大津島の素晴らしい魅力を、体感して戴ければと思っております。

今後も皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆さまのご健勝と、ご多幸をお祈り致します。

大津島地区コミュニティ推進協議会 会長 安達 壽富

全国の島々が集まる祭典

大津島 初参加!

アイランダー2014

An interactive event promoting discourse between urban and island people.

2,3面にて特集



◇大好評◇

皆様にご協力いただきました“しまいるパネル”。東京の皆さんも、大津島住民280名の笑顔の写真に、感嘆の声をあげていました。

知っちょるかね



「大津島ポテトマラソン」

文＝松本 千恵子



芋ちゅうたら島ではサツマイモのこと。このサツマイモを旗印にいただいたポテトマラソン。しかし、島の芋はここ近年、島の山を征服したかの猪の猛攻に島民は防戦一方、芋汁や賞品の芋の確保に難儀した。

それでも役員の奔走により何とかかき集め、当日はおもてなしの心をこめた温かい芋汁を皆さん美味しそうに食べておられ、苦勞も報われた思いだったろうね。

他にも、当日集結した島んちゅうのボランティアや、自身の寒さより参加者の心配をしながら、浴道で声援を送ってくれた島の人達。こうした島の情けに支えられて、今年二十五回大会。更なる歴史に希望を込めて、皆さんおつかれさまでした。



「島の正月」

文＝屋野 廣志

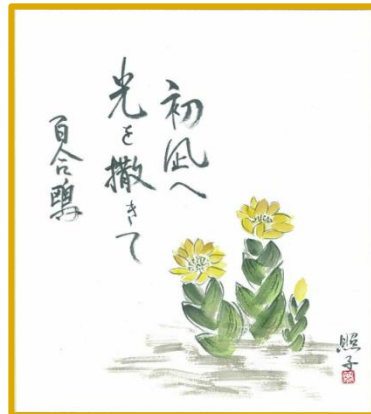
めでたくも有り、めでたくも無し、私達が小学低学年の頃は日常生活で必要な米麦、塩、酢など年間を通して通帳なるもので店屋から求める事が出来た。支払方法は有る時払いと、盆と大晦日が精算の時の様であった。赤貧船乗り稼業の我が家のその支払決算は如何なものであっただろうか。子供ながら元旦の朝食にはその様な思いがした。無言で静かな厳粛と云えば美しいが、貧しさが故の宿命的な暗黙の内の反省か、祖母は正月の三が日間は、そこに居合わせない家族全員に陰膳として少量のめしを盛り並べ、神棚、仏壇、かまどの上、井戸端等々の数カ所

に、聞き取れない念仏の様な、まじないの様なことを唱えながら、小さな鉢盛めしを供え終わって朝食となる。特に御馳走もなく、大きな鍋に雑煮を腹一杯食ったのが正月であった。晴着も無し。お年玉など無論なし。遊びはコマ「チョンガー」パッチコ、田んぼの中の棒立ても懐かしい。自作の自慢の木の櫓（ソリ）である急勾配の坂をすべり降りるスリル。泥まみれ、服は破れ、親に叱られ、危険極まる遊びを思い出す。後期高齢の己の気力・体力に似て止めるすべもなく、スベリ落ちていく。

何回転んでも起き上がる達磨さん。元々何もないんだから心くじけずまた勇気を出してやり直せばいいよ！今年も頑張りましょう。



達磨



福寿草

季節の俳画

安達照子



福寿草は、正月用の鉢植として栽培され、可憐な黄色い花を寒さに耐えて咲かせる様子にパワーをもらう事ができます。

海

の街道・十五
【吉田松陰】



京都大学付属図書館蔵

文＝末兼正純

今年の大河ドラマのヒーロー・吉田松陰は、大津島で一夜を明かしたことがある。

以下、松陰自身が記した日記による。

一八五三年（嘉永六年）一月二六日早朝六時、二二歳の松陰は萩を後にする。藩の建前は罪を咎めての追放だが、本心は諸国を遊学させることにあった。

松陰は萩往還十三里余を一気に踏破して夕刻三田尻に入る。そして東海船と呼ばれた大阪行きに乗合船を探すが便に恵まれず、やっと富海から船出したのは二月一日午前十時であった。舟子は三人、相客は商人二人と百姓六人、そのうち四人は老婆と記している。

ところが進むこと二里、海が大荒れになり、午後遅くようやく近江の入り江に辿り着いて難を避ける。

その夜、にわかの大勢の叫び声や鉦の音がする。覗いてみると九曜紋の幔幕をめぐらせた「艦、ムカデの足の如き関舟」が東から二隻近づいてくる。肥後細川藩の船で、察するに藩主の御座船である。

関舟とは四二〜八十挺の櫓を備えた大型の早舟である。外夷の脅威にさらされている今、長州藩にはこれだけの船すらない、と松陰は悲憤している。

細川藩の船も荒天を避けてきたもので、ともに一夜を明かしている。翌日は天候が回復し、松陰は順調に船旅を続け、二月十日に大阪に到着している。

そしてその四ヶ月後に、松陰はペリーの黒船を浦賀へ見に行く。そのことが松陰の運命を決定づける。

アイランダー2014の様子



●アイランダーとは！？

全国の離島が、年に一度東京に集まり、それぞれの島の魅力や定住促進、観光情報などの情報発信や、島民同士の交流を行うイベントです。



サツマイモ・みかん・すだいでい・小麦を販売しました。初めて見る“すだいでい”に東京の皆さんは、興味深々でした。

十一月二十二日〜二十三日に、東京・池袋サンシャインにて開催された「アイランダー2014」に、大津島が初めて参加しました。当日は、一万四千人が来場し、そのうち七百人が大津島ブースの見学をして下さいました。

今年のアイランダーには、全国百八十の離島が集まり、七十九ブースに分かれ出展しました。山口県からは、萩諸島、周防大島、大津島、祝島が参加しました。

今月号の潮流では、特集を組み、当日の様子や参加したメンバーのコメント、今後の展望などを、ご紹介します。



大津島のステージ発表。15分間の中で、大津島の説明、プロモーションビデオの上映を行いました。最後に、島の特産品（しまのわ宿泊券・サツマイモ・ウニ瓶・ポロシャツ・若潮の会てぬぐい）が当たる、じゃんけん大会を開催し、2日間で100名近いお客さんが参加して下さいました。



離島の若者同士の出会いや交流する時間は、新しいアイデアや刺激をもらいました。



来場者には、パネルやパンフレットを使い説明をしました。また大津島に関するアンケートも実施。



奥行2m×間口3mの広さに、大人6人が入って、大津島の紹介や特産品の販売などを行いました。豆茶の無料試飲も行いました。皆さん「美味しい！」と驚かれています。



新大津島ポスター。島内では、ふれあいセンターで掲示中。また、只今1月末まで、徳山駅ビル2F 市民交流センターにて、アイランダーパネル展示中。

アイランダー2014を観て

末兼正純

祭典2日目の夕方、終了の1時間足らず前に会場に着きました。予想を超えた活況で、もっと余裕を持って来るべきだったと思いました。フェア全体は、その賑わいから見て成功、つまり出展した価値は充分あったと思います。コンクリートジャングルの住人達にとって”島”は魅力的なのでしょう。

大津島の展示は、よく頑張ったと思います。特に”しまいる”はアピールする力のあるアイデアでした。

出展は費用もマンパワーもかかるものですが、その不足を克服した皆さんの熱意と努力に敬意を表します。

パネルやポスターをもっと大きく、情報を重点化すべき、ブースが狭い等々、改善点はありますが、これらを活かせば次回はもっと素晴らしいものになるでしょう。

～感想～

古城 涼太（馬島出身）

アイランダーに行って、島=大津島くらいしか自分の中にはなかったので全国にはこんなにたくさん島があるのだと驚きました。そして、大津島に似ている島もあれば、人口が大津島より少ない島もある。そんなところでも若い人が島の将来を考えていたり、おじいさんやおばあさんが特産品を作って頑張っていたり、島のことを強く想う人もたくさんいることに驚きました。

アイランダーのような定住促進イベントに参加して、それぞれ1人でも人口が増えたらその価値はとても大きなものだと思います。

渡邊 あゆ子（馬島在住）

今回のアイランダーでの最大の成果は、「しまいるパネル」という、島民全員約280人の写真を撮ったパネルを、東京に持って行ったことです。

「え？これだけしかないの？」パネルを見たお客さんの反応のほとんどはそうでした。でも、中には「皆さんいい顔してるね」という意見もありました。私も本当にそう思います。

そんな中、相島という島民177人しかない島で、山口県内の半分以上のスイカを生産しているということを知りました。

「これだけしかない」のではなく、大津島には笑顔の花が「まだこんなにある」。そう思えた事が、私にとって、未来への大切な「おみやげ」となったのです。



◆あゆ子さんのイラストと涼太君で、大津島の宣伝は、バッチリ！

六郎万 淳一（刈尾勤務）

アイランダーの目的は、全国の島々を紹介するブースにたくさんお客様にきてもらうことです。初参加の大津島の目的は、関東の皆さんに知ってもらうことです。目標としては、アンケートを500枚もらうこと、終了後に支所に問い合わせがくること、出展者との交流を図ることでした。のほほんとして過ごしてもらうことが、いずれ定住につながることを期待しての取り組みです。みんなでアイディアを出し合い、これからも発信していきましょう。

大友 翔太（本浦在住）

4年前、大津島に移住した当初は、アイランダーに参加するのは、夢のような話でした。しかし、今回島民の皆様をはじめ、5人の素晴らしい仲間を支えられ、無事やりきることができました。今回の大きな成果は、1万4千人の方が、「大津島」という名を覚えて帰って下さったことだと思います。

皆様のご協力に心より感謝しております。ありがとうございました。

國兼 裕司（周南市ふるさと振興財団 職員）

外部からのアドバイザーということで、微力ながら、大津島のみなさんのお手伝いが出来ればと、参加させていただきました。個人的には、アイランダーを通じて、大津島のことを深く知ることができ、会議や準備を行う中で、役員の皆さんと密な時間を過ごせたことが、一番の収穫でした。今回限りではなく、続けてお手伝いが出来ればと考えていますので、今後とも、よろしくお祈りします。



◆友人と再会。萩 相島の坂倉さん。二人は、20代の頃からの友人。

石田 信行（本浦在住）

アイランダー2014には、全国から79島が参加し、島の情報発信や定住促進、特産品の紹介や販売等を行いました。

大津島のブースには、初参加という事で注目を集めたのか、多数の来場者があり、500枚を目標にしていたアンケートを、早々と達成することができました。

対応に忙殺されて「しまいるプロジェクト」や居住体験「しまのわ」・「しまのくらし」等のパネルについての説明や相談に十分な時間をかけられず少し残念でしたが、今回の参加で大津島をしっかりとPRすることが出来たと思います。

◆◇建国記念日奉祝行事◇◇
アイランダー2014
参加報告会
 開催!! 平成27年
 2月11日(水)

～事務局からのお知らせ～



文=大友 あゆみ

◇交通安全協会便り◇

カーブミラー清掃実施

10月31日(木)、交通安全協会 大津島支部のメンバー9名で、島内のカーブミラー42枚の清掃と、ミラーの破損・腐食箇所等の調査活動を行いました。この調査結果をもとに、ミラーの交換・新設要望を市役所担当課に提出しました。綺麗になったカーブミラーを見て、改めて交通安全に対する意識が高まった一日でした。参加して下さいました。ありがとうございます。

◇社会福祉協議会便り◇

周南市連合老人クラブより

睦会 安達 良子さんが

「高齢者栄誉賞」の表彰を受けました。おめでとうございます。

移動図書館<やまびこ号 Jr.>

1月23日(金) 2月13日(金)

●馬島巡航待合所 11:30~12:00

●刈尾巡航待合所 12:20~12:50



大津島の最新情報 更新中!!
<http://shunan-inaka.jugem.jp/>

編集後記 もうすっかり冬。暖かくするのは勿論ですが、“こたつ”での長時間の睡眠は、発汗や乾燥が原因で、風邪やインフルエンザになりかねません。気を付けましょう。僕も気を付けます(笑) 大友 翔太